

**■正誤問題** (過去に出題された選択肢) 21 問

**地業・基礎工事に関する問題です。○×で回答して下さい。**

1. セメントミルク工法においては、アースオーガーを逆回転させながら引抜きを行った。
2. 打撃工法による既製コンクリート杭の打込みにおいて、支持地盤への到達の確認を、「打込み深さ」及び「貫入量」により判断した。
3. アースドリル工法による掘削において、支持地盤への到達の確認を、「掘削深度」及び「排出される土」により判断した。
4. 即製コンクリート杭の継手は、特記がなかったので、アーク溶接による溶接継手とした。
5. 騒音及び振動の測定は、作業場所の敷地境界線において行った。
6. シルト質細砂層の地盤に、真空吸引して揚排水するウェルポイント工法を採用した。
7. 基礎・柱・基礎ばりなどの墨出し・配筋、型枠の建込みをするために、表面を平らに仕上げる捨コンクリート地業を行った。
8. 山留めを親杭横矢板工法とした場合の基礎工事までの作業は、地業→根切り→山留め→基礎の順で行った。
9. 比較的良好な地盤に、切込み砂利を用いて砂利地業を行った。
10. 山留め壁に作用する側圧を十分に切ばりに伝達させるために、腹起しを連続して設置した。
11. コンクリートを割った塊（コンクリートガラ）を十分に破碎し、砂利地業に用いた。
12. 砂利地業を行うに当たって、床付け面となる深さより地下水位が高かったため、排水して地下水位を下げた。
13. 基礎スラブからの荷重を支持層に伝えるために、杭地業を行った。
14. 地盤を強化するために、均しコンクリート地業を行った。
15. 支持力のある良好な地盤に、すき取り掘削をして地肌地業を行った。

16. 山留め壁に加わる側圧が十分に切ばりに伝わるように、腹起しを連続して設置した。
17. 基礎工事までの作業を、地業→根切り→山留め→基礎の順で行った。
18. 既製コンクリート杭を作業地盤面以下に打ち込む場合には、やっところを用いて、杭打ちを行った。
19. 工事現場が住宅地で地下水位が高いので、山留め工事として、ソイルセメント柱列山留め壁工法を採用した。
20. 敷地に余裕があったので、山留め壁や支保工を用いずに、法付けオープンカット工法を採用した。
21. 節付コンクリート杭を摩擦杭として施工した。



## ■正誤問題 解答編

1. セメントミルク工法においては、アースオーガーを逆回転させながら引抜きを行った。
1. × **アースオーガーは逆回転させてはいけません。引き上げる時も正回転のまま引き上げます。**
2. 打撃工法による既製コンクリート杭の打込みにおいて、支持地盤への到達の確認を、「打込み深さ」及び「貫入量」により判断した。
2. ○
3. アースドリル工法による掘削において、支持地盤への到達の確認を、「掘削深度」及び「排出される土」により判断した。
3. ○
4. 即製コンクリート杭の継手は、特記がなかったので、アーク溶接による溶接継手とした。
4. ○
5. 騒音及び振動の測定は、作業場所の敷地境界線において行った。
5. ○
6. シルト質細砂層の地盤に、真空吸引して揚排水するウェルポイント工法を採用した。
6. ○
7. 基礎・柱・基礎ばりなどの墨出し・配筋、型枠の建込みをするために、表面を平らに仕上げる捨コンクリート地業を行った。
7. ○
8. 山留めを親杭横矢板工法とした場合の基礎工事までの作業は、地業→根切り→山留め→基礎の順で行った。
8. × **親杭横矢板工法では、親杭を1.5～1.8mピッチに打込み、根切りがある程度進んだら、山留め(横矢板を差し込んでいく)を行います。根切り底に到達したら地業工事、その次に基礎工事を行います。**
9. 比較的良好な地盤に、切込み砂利を用いて砂利地業を行った。
9. ○
10. 山留め壁に作用する側圧を十分に切ばりに伝達させるために、腹起しを連続して設置した。
10. ○
11. コンクリートを割った塊(コンクリートガラ)を十分に破碎し、砂利地業に用いた。
11. ○

12. 砂利地業を行うに当たって、床付け面となる深さより地下水位が高かったので、排水して地下水位を下げた。  
12. ○
13. 基礎スラブからの荷重を支持層に伝えるために、杭地業を行った。  
13. ○
14. 地盤を強化するために、均しコンクリート地業を行った。  
14. × **均しコンクリート地業は、基礎・柱・基礎ばりなどの墨出しの為にするもので、地盤を強化するために行うものではありません。**
15. 支持力のある良好な地盤に、すき取り掘削をして地肌地業を行った。  
15. ○
16. 山留め壁に加わる側圧が十分に切ばりに伝わるように、腹起しを連続して設置した。  
16. ○
17. 基礎工事までの作業を、地業→根切り→山留め→基礎の順で行った。  
17. × **基礎工事までの作業の順番は、根切り→山留め→地業→基礎です。**
18. 既製コンクリート杭を作業地盤面以下に打ち込む場合には、やっここを用いて、杭打ちを行った。  
18. ○
19. 工事現場が住宅地で地下水位が高いので、山留め工事として、ソイルセメント柱列山留め壁工法を採用した。  
19. ○
20. 敷地に余裕があったので、山留め壁や支保工を用いずに、法付けオープンカット工法を採用した。  
20. ○
21. 節付コンクリート杭を摩擦杭として施工した。  
21. ○

毎年ではないですが、  
出題頻度は高いと  
言えますよ。

